

第4次朝倉市総合計画

＜令和 9 年度～令和 12 年度＞

序論 兼 基礎調査報告書

1. 市の特性
2. 人口・世帯
3. 財政動向
4. 産業動向
5. 統計でみる朝倉市の強み・弱み
6. 市民意識 （一部は秋に取得予定）
7. 中学生が思う朝倉市
8. まちづくりの分野別進行状況

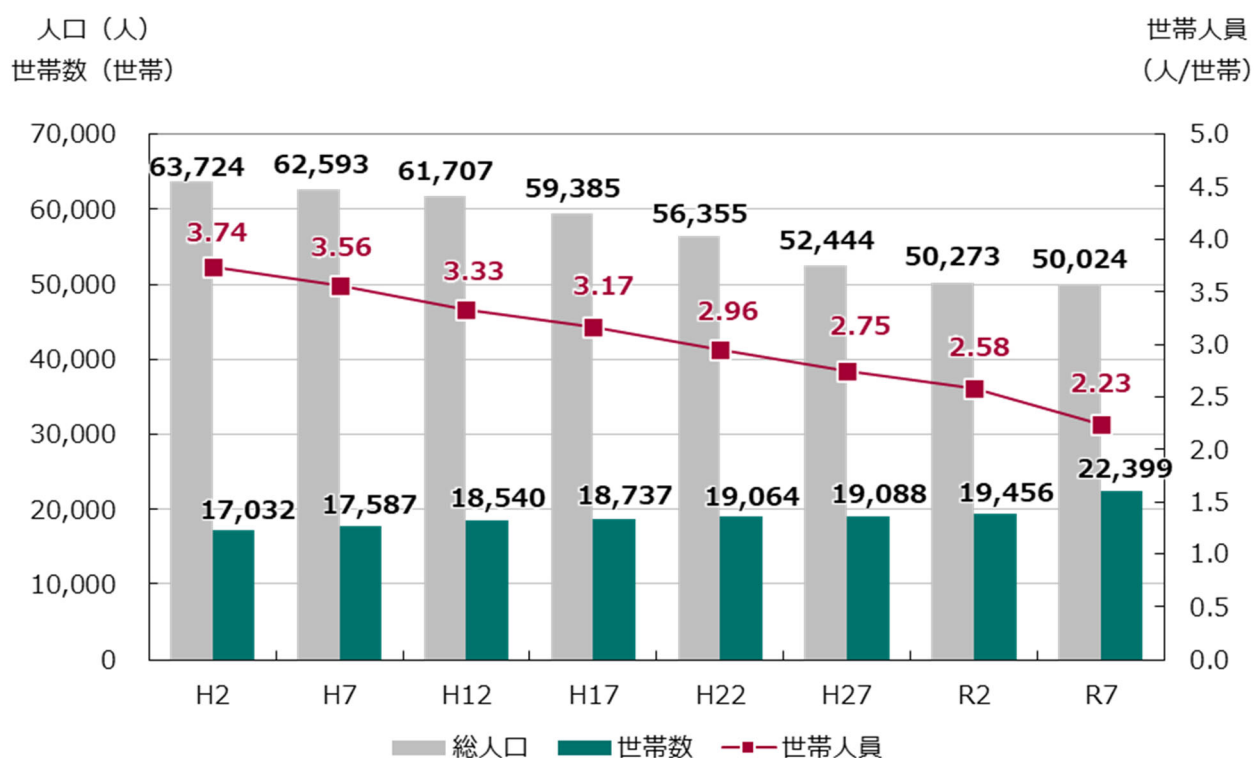
2. 人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

朝倉市の住民基本台帳人口は、令和 7 年 1 月の時点で 50,024 人となっています。推移を見ると、直近 10 年間(平成 27 年と令和 7 年を比較)では、約 2,400 人減少しています。

1 世帯当たり人数は、平成 27 年の 2.75 人から令和 7 年には 2.23 人と減少しており、核家族化、少子化などが進んでいる状況がうかがえます。

■ 人口と世帯数

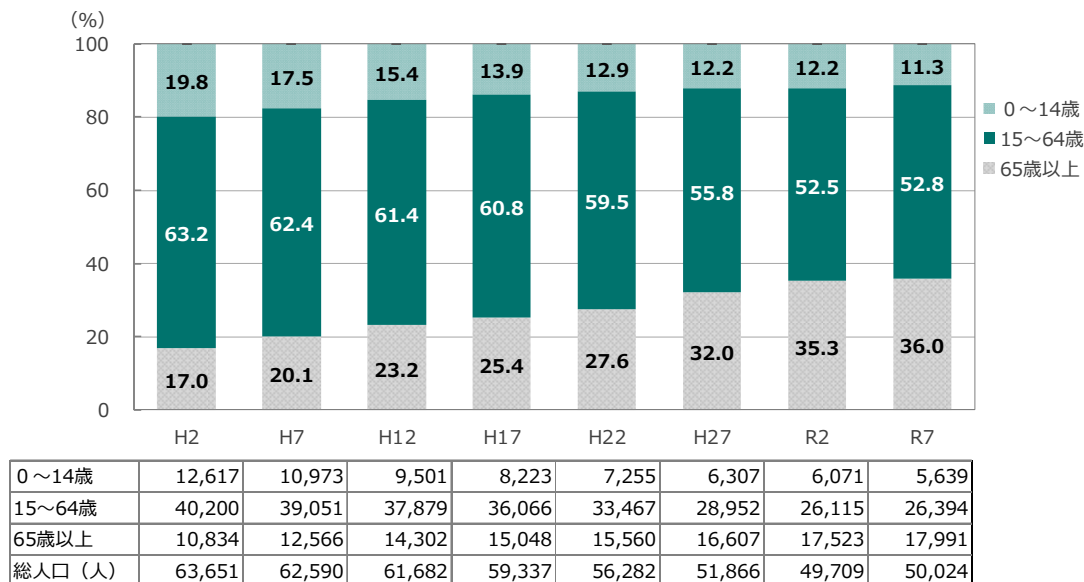


出典:総務省「国勢調査」、R7 年のみ総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

(2) 年齢構成の変化

朝倉市の年齢3区分の人口構成比の推移では、65歳以上の高齢化率が平成7年に20%を超え、令和7年時点では36.0%まで増加し、市民の3人に1人が高齢者という状況です。

■ 年齢階層別人口構成比

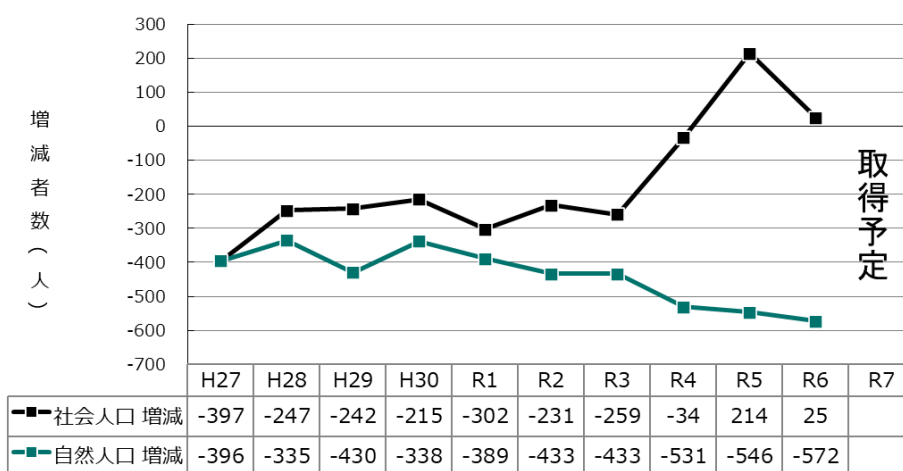


出典：総務省「国勢調査」(年齢不詳除く)、R7年のみ総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」
 ※小数点端数表示の関係で、項目ごとの%を足し上げても100%になりません。

(3) 人口の社会増減・自然増減

朝倉市の人口動態は、自然人口増減※1(出生・死亡)、社会人口増減※2(転入・転出)ともに減少となっていました。社会人口増減は近年増加に転じています。自然人口増減は、死亡超過となっており、年間約300～600人の減少で推移しています。

■ 社会増減・自然増減の推移



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
 ※社会人口増減は、転入者数・転出者数にその他を含んでいます。

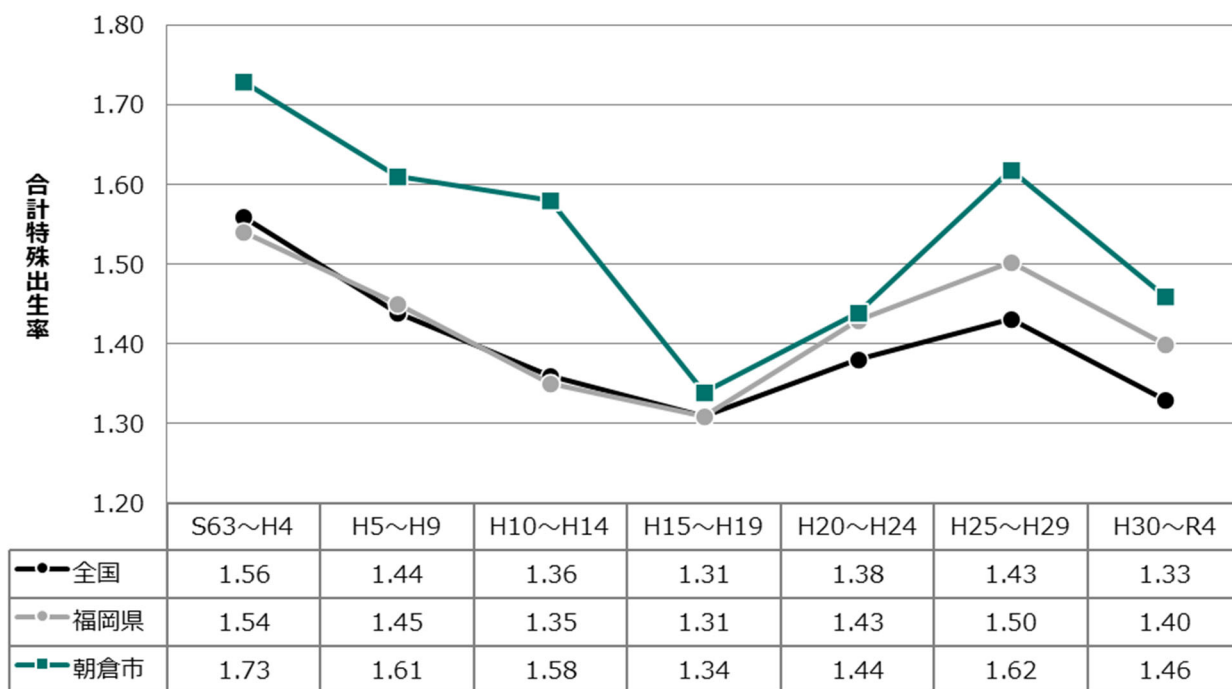
用語解説

※1 自然人口増減	死亡数と出生数の差による人口の変動で、死亡数が多い場合は自然減となる。
※2 社会人口増減	転入数と転出数の差による人口の変動で、転出数が多い場合は社会減となる。

(4) 合計特殊出生率の動向

朝倉市の合計特殊出生率(15～49 歳の女性が一生の間に産む子ども数)は、全国や福岡県を上回る状況が続いており、令和 4 年時点で 1.46 となっています。

■ 合計特殊出生率の推移



出典:厚生労働省「人口動態統計」、「人口動態統計特殊報告」

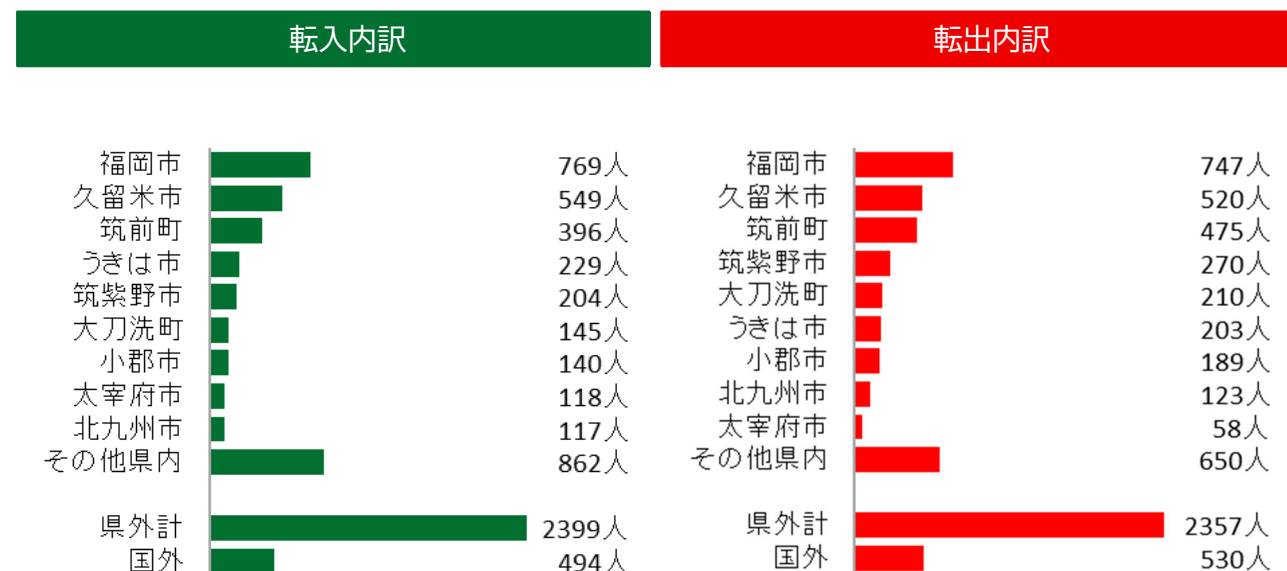
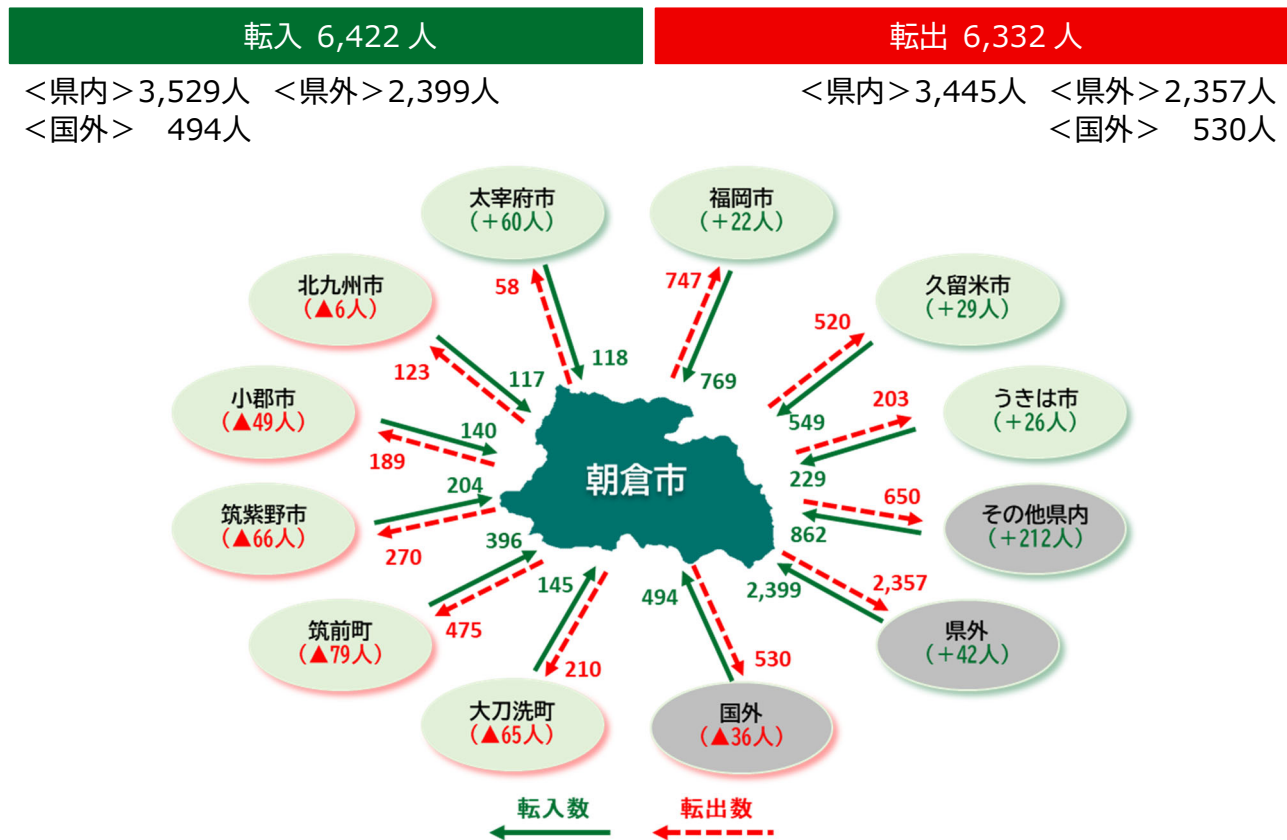


(5) 県内・県外での転出入先傾向

令和4年から令和6年にかけての転入・転出人口(福岡県「人口移動調査 福岡県の人口と世帯年報」)を見ると、90人の転入超過となっています。県内と県外でそれぞれ84人と42人の転入超過となっており、国外が36人の転出超過となっています。

転入・転出ともに、福岡市、久留米市、筑前町との移動が上位を占めています。福岡市と久留米市では転入超過となっていますが、筑前町とは転出超過となっています。

■ 転入・転出の状況(R4～6年にかけて移動した人口の3年間合計)



3. 財政動向

(1) 歳入歳出の推移

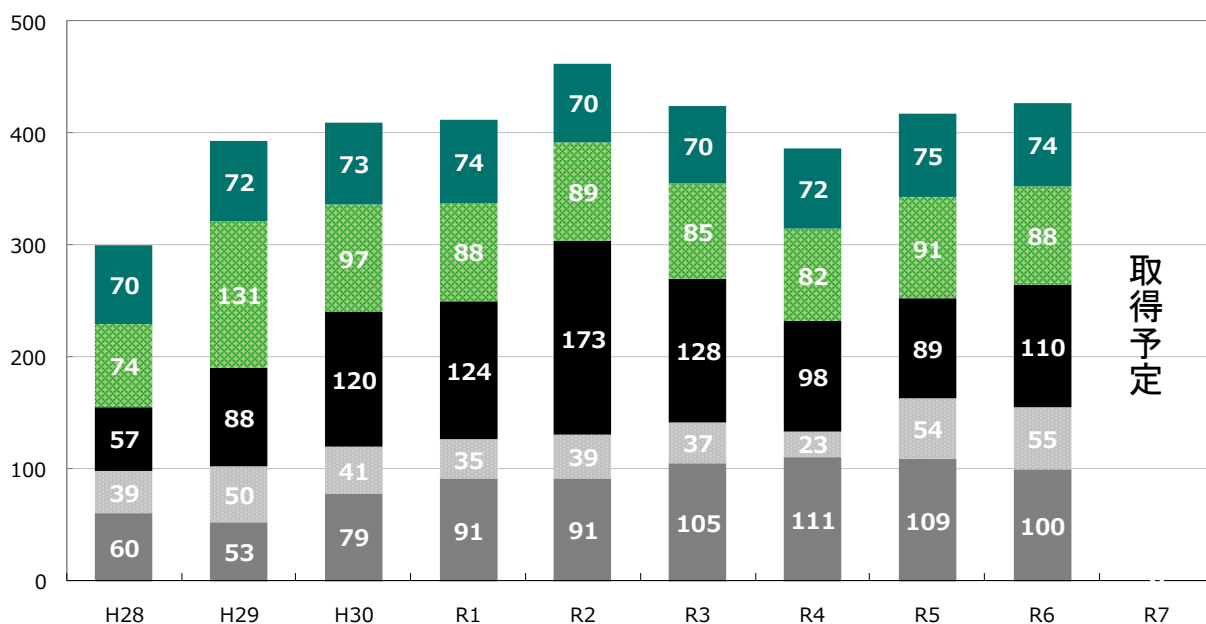
【歳入】

平成 29 年度以降に地方交付税^{※1}、国・県支出金^{※2}、その他^{※3}(寄附金、繰入金、繰越金)が、大幅に増加しています。その理由は九州北部豪雨の復旧復興、新型コロナウイルス感染症対策によるものです。

特殊要因を除いた基礎的な歳入内訳では、自主財源である市税^{※4}の 10 年間の推移を見ると、70～75 億円となっており、横ばい傾向にあります。市の借入金である地方債^{※5}の直近の傾向は、20～50 億円程度で、歳入の 6～13%程度を占めています。

■ 歳入総額(内訳別)の推移

(億円)



歳入総額 (億円)	300	393	410	412	463	424	387	417	426	0
--------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

※R7は未公表

■ 市税 ■ 地方交付税 ■ 国・県支出金 ■ 地方債 ■ その他

※小数点端数表示の関係で、足し上げても合計が合わない場合があります。
出典：総務省「決算カード」

用語解説

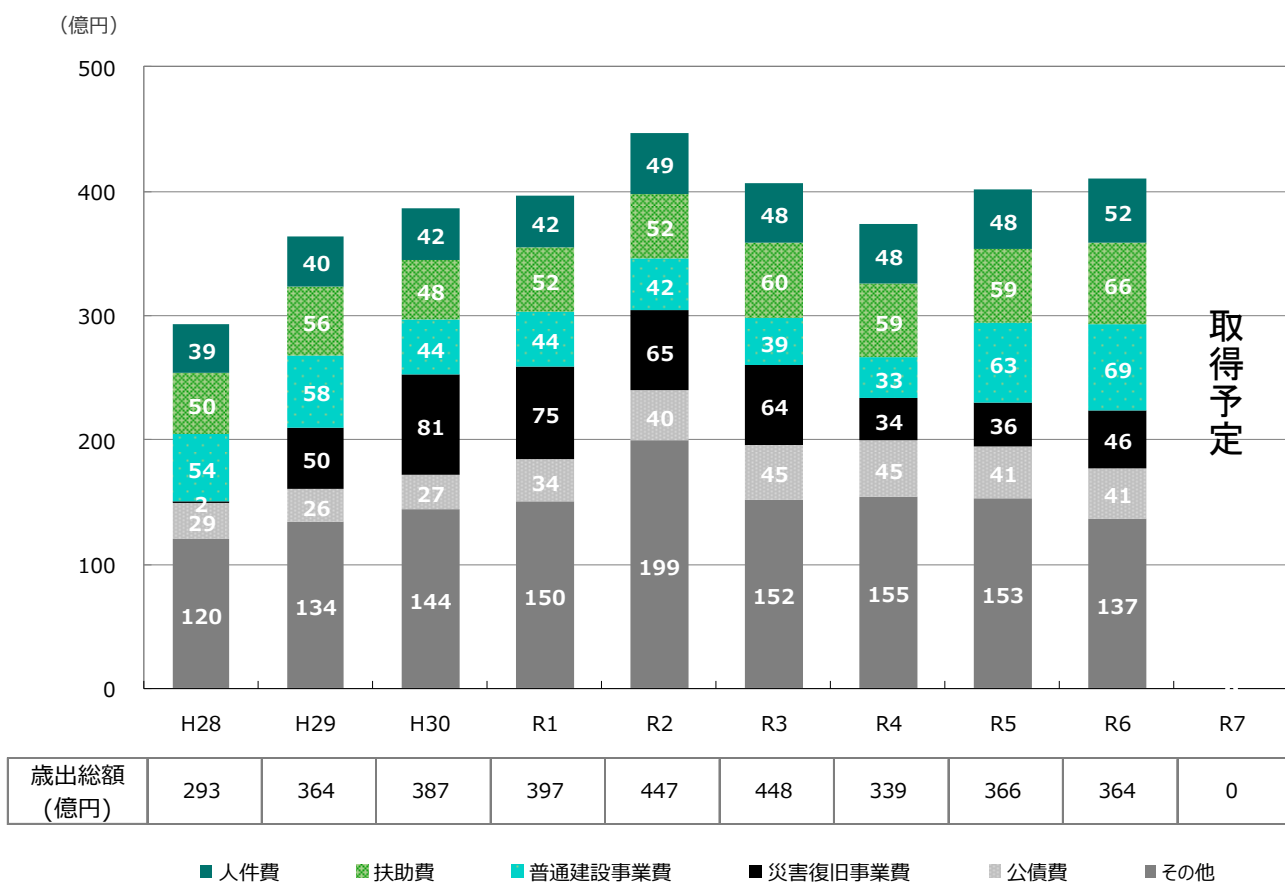
※1 地方交付税	地方公共団体が等しく事務を遂行できるように、国から一定の基準により交付される税のこと。
※2 国・県支出金	国・県が地方公共団体に支出・交付する負担金や補助金等のこと。
※3 その他	寄附金、繰入金、繰越金等、その他財源のこと。
※4 市税	市民税や固定資産税等、市が賦課、徴収する地方税のこと。
※5 地方債	団体が財政上必要とする資金を外部から調達することによって負担する債務で、その履行が一会計年度を超えて行われるもの。

【歳出】

平成 29 年度以降に災害復旧事業費※¹、その他※²（物件費、補助費、積立金）が、大幅に増加しています。その理由は九州北部豪雨の復旧復興、新型コロナウイルス感染症対策によるものです。

特殊要因を除いた基礎的な歳出内訳では、福祉等の扶助費※³ が 50 億円前後の推移で推移していましたが、令和 6 年度は 66 億円に達しました。普通建設事業費※⁴ は 40 億円前後で推移していましたが、令和 5 年度以降は 60 億円を超えています。市の借金返済の意味を持つ公債費※⁵ は、近年は横ばい傾向です。人件費※⁶ は 40 億円前後で推移していましたが、災害復旧復興や多様な行政需要への対応に伴う増員により増加しています。

■ 歳出総額(内訳別)の推移



※R7は未公表

※小数点端数表示の関係で、足し上げても合計が合わない場合があります。
出典：総務省「決算カード」

用語解説

※1 災害復旧事業費	暴風雨等の自然現象や大規模な火事、爆発等による災害の復旧事業（補助事業、単独事業）に係る経費のこと。
※2 その他	物件費、補助費、積立金等、その他行政サービス提供に必要な経費のこと。
※3 扶助費	社会保障制度の一環として地方公共団体が各種法令に基づいて実施する給付や、地方公共団体が単独で行っている各種扶助に係る経費のこと。
※4 普通建設事業費	道路、下水道、学校、保育所等公共施設の改良、新設のための事業経費のこと。
※5 公債費	地方公共団体が発行した地方債の元利償還等に要する経費のこと。
※6 人件費	職員等の給与や議員報酬等の経費のこと。

(2) 財政分析比較

朝倉市の財政分析結果は以下のとおりです。災害復旧等の特殊要因もありますが、おおむね健全な状態です。将来負担比率※¹が大きく改善されています。実質公債費率※²は、9%から 7%台に減少しています。

■ 市町村財政比較分析表(令和6年度普通会計決算)

	単位	朝倉市	類似団体 内平均	類似団体46 自治体内順位	福岡県 平均
財政力指数 ※ ³		0.50	0.44	15	0.52
経常収支比率 ※ ⁴	%	93.5	94.3	16	94.3
人口1人当たり人件費・物件費等決算額	円	194,004	189,907	28	163,933
将来負担比率	%	—	9.8	1	32.9
実質公債費比率	%	7.5	8.6	16	7.4
人口千人当たり職員数	人	9.20	8.91	28	8.71
ラスパイレース指数 ※ ⁵		99.4	97.6	38	96.4

資料:福岡県 財政状況資料集(令和6年度)

【参考】財政健全化4指標の推移

調査年度	実質公債費比率	将来負担比率	実質赤字比率	連結実質赤字比率
令和2年度	9.4	-	-	-
令和3年度	9.2	-	-	-
令和4年度	8.6	-	-	-
令和5年度	8.1	-	-	-
令和6年度	7.5	-	-	-
早期健全化基準	25.0	350.0	12.69	17.69
財政再生基準	35.0		20.00	30.00

用語解説

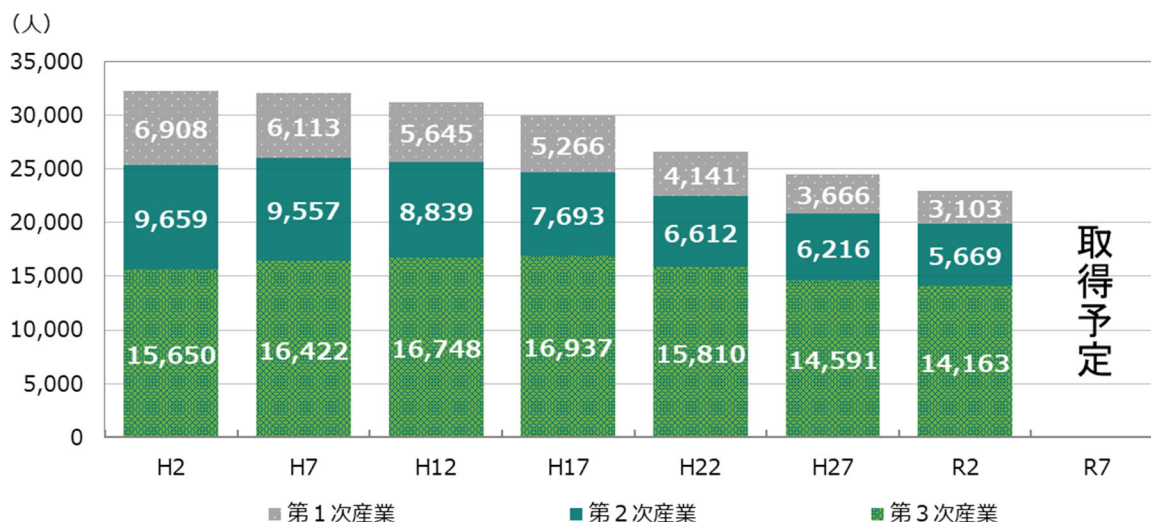
※1 将来負担比率 (将来負担の状況)	地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額に対する比率のこと。地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標ともいえる。
※2 実質公債費比率 (収入に占める借金返済割合)	自治体の収入に対する負債返済の割合を示すもの。通常、3年間の平均値を使用する。18%以上では、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要となり、25%以上では借金を制限される。
※3 財政力指数 (財政力)	地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値のこと。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。
※4 経常収支比率 (財政構造の弾力性)	地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、経常的経費(人件費、扶助費、公債費等)に、地方税、普通交付税を中心とする経常一般財源収入がどの程度充当されているかを見るものであり、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。
※5 ラスパイレース指数 (給与水準)	地方公務員の給与水準を表すもので、国家公務員行政職(一)職員の俸給を100とした場合の地方公務員一般行政職職員の給与の水準を指す。

4. 産業動向

(1) 産業別就業人口の推移

令和 2 年の就業人口は、24,108 人で、昭和 60 年以降、減少傾向を示しています。平成 22 年の就業人口 27,763 人がこの 10 年間で 3,655 人減少し、第 1 次産業では▲25.1%、第 2 次産業で▲14.3%、第 3 次産業▲10.4%の減少率となっています。

■ 産業別就業人口

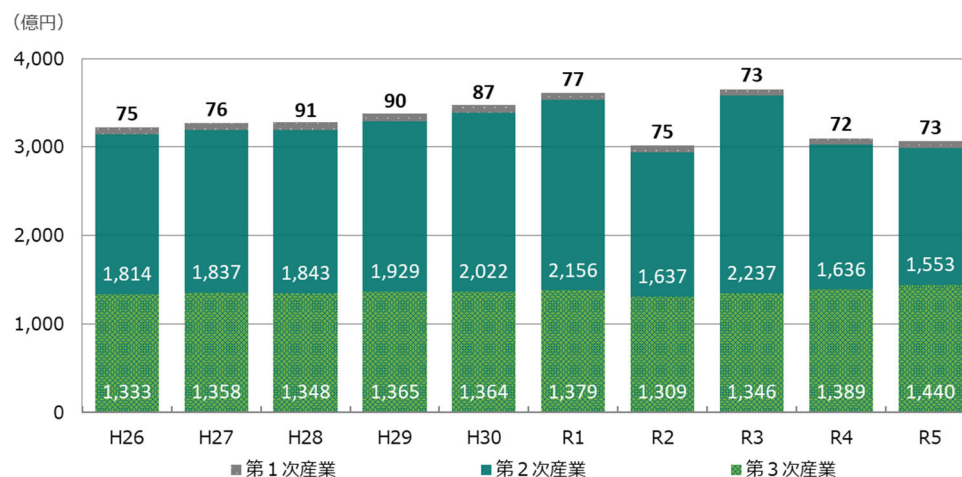


※分類不能は除きます。
出典：総務省「国勢調査」

(2) 産業別総生産額の推移

令和 5 年の市内総生産額は 3,095 億円となっています。市内の産業別総生産額では、第 1 次産業・第 3 次産業はほぼ横ばいで、第 2 次産業が増加傾向にありましたが、令和 2 年度以降は横ばい傾向にあります。

■ 市内産業別 総生産額

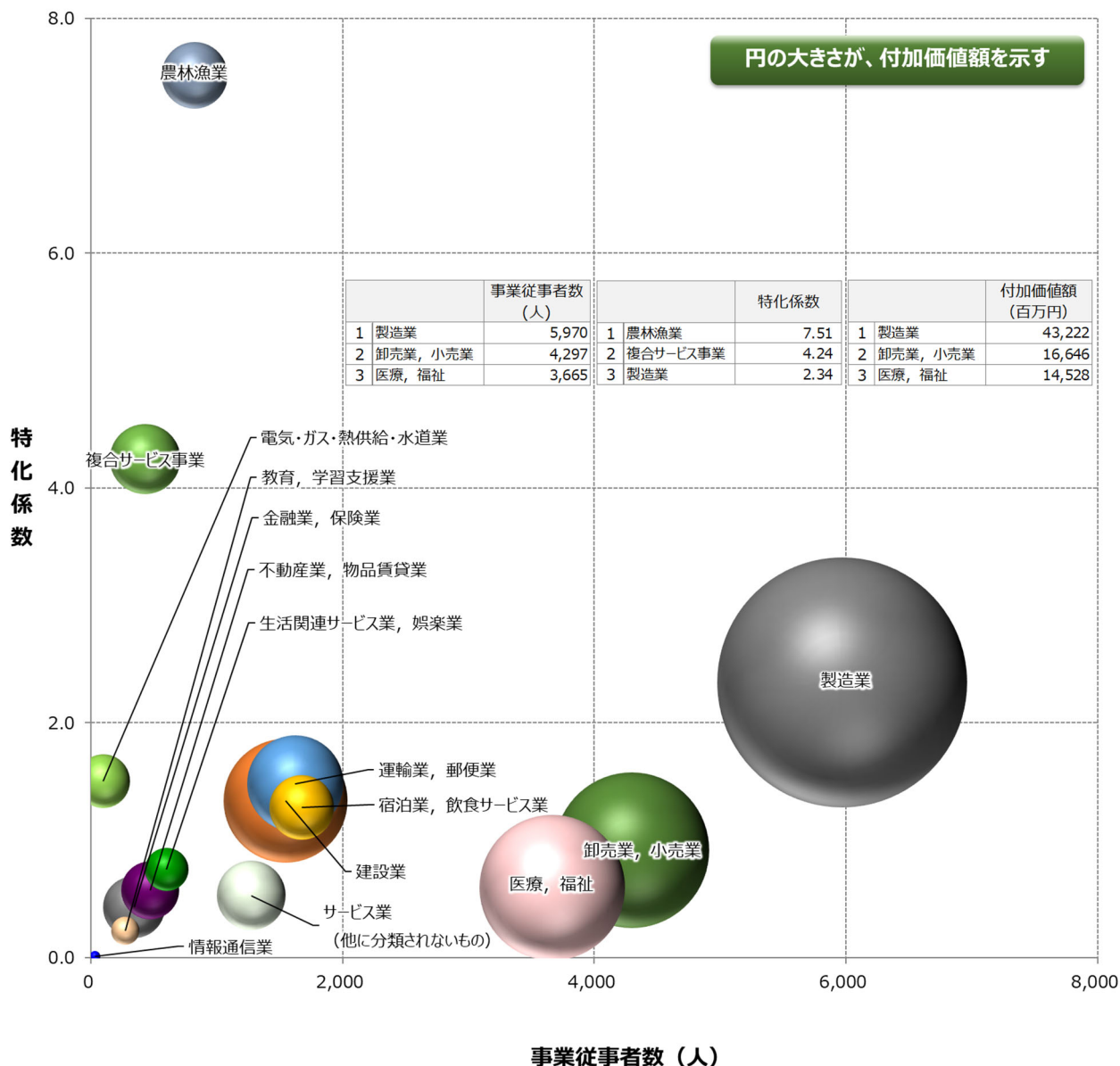


※輸入品に課される税・関税等は除きます。
出典：福岡県市町村民経済計算

(3) 経済構造の特徴

雇用と付加価値額(税収に影響)では、製造業の貢献が大きく、雇用で約 6,000 人、付加価値額で約 517 億円となっています。次いで、卸・小売業、医療・福祉業と続きます。特化係数では、複合サービス(郵便局、農協等協同組合)が 4.80 となっています。

■ 朝倉市の経済構造



※ 鉱業, 採石業, 砂利採取業及び学術研究, 専門・技術サービス業は、X と表示されていないことから、グラフ掲載なし。

出典: 令和 3 年経済センサスー 活動調査(事業所に関する集計)

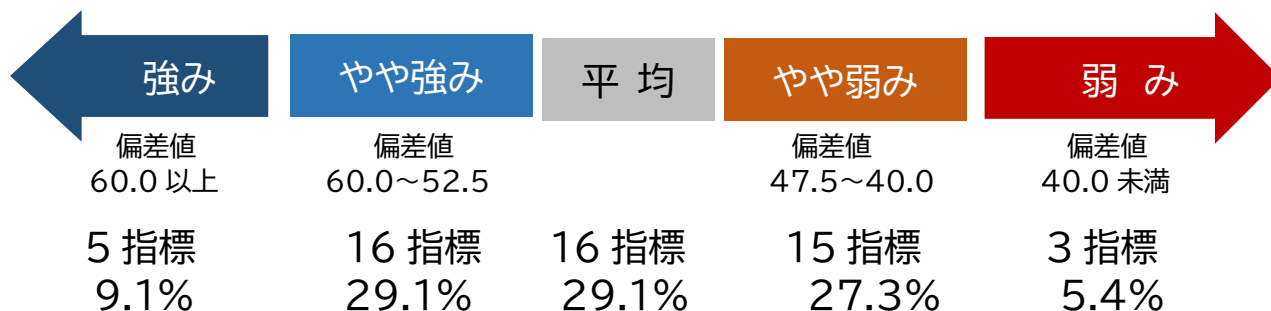
用語解説

※1 付加価値額	企業等の生産活動によって新たに生み出された価値のこと。経済センサスにおいては、以下の計算式により算出している。 付加価値額 = 売上高 - 費用総額 (売上原価 + 販売費及び一般管理費) + 給与総額 + 租税公課
※2 特化係数	産業分類ごとに、全国と市とを比較した指標のこと。1.0 を基準に、数値が大きい場合には、他業種よりも優位性があるといえる。

5. 統計でみる朝倉市の強み・弱み

市町村間で比較可能な12分野55指標について、福岡県市町村(福岡市・北九州市除く)との比較を行いました。比較にあたっては、人口規模が異なるため、偏差値化した比較を基本としています。

強み・やや強みは、21指標38.2%、やや弱み・弱みは18指標32.7%となっています。



		強み 弱み				
		指標の 方向性	60以上	52.5以上	47.5~ 52.5	47.5以下 40以下
人口						
人口増減率	↑					
年少人口率	↑					
生産年齢人口率	↑					
老年人口率	↓					
出生						
合計特殊出生率(ベイズ推計値)	↑					
未婚率(女性)(25~39歳)	↓					
未婚率(男性)(25~39歳)	↓					
有配偶出生率(15~49歳)	↑					
合計特殊出生率内訳:第1子	↑					
合計特殊出生率内訳:第2子	↑					
合計特殊出生率内訳:第3子以降	↑					
転出入						
若者人口(20歳未満)の転入率	↑					
若者人口(20歳未満)の転出率	↓					
女性人口(全年齢)の転入率	↑					
女性人口(全年齢)の転出率	↓					
賑わい						
大型小売店数(人口1万人当たり)	↑					
医薬品・化粧品小売り業民営事業所数(人口1万人当たり)	↑		7			
飲食店民営事業所数(人口1万人当たり)	↑		6			
娯楽業民営事業所数(人口1万人当たり)	↑					
くらし・安全						
食料品アクセス困難人口割合(買い物環境65歳以上割合)	↓					
都市公園等の面積(人口1万人当たり)	↑					
犯罪率	↓					
交通事故(人身事故)発生率	↓					

数字については精査中

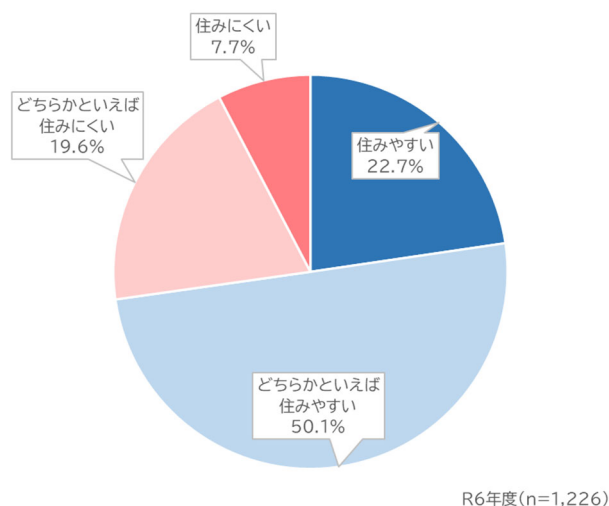
			強み ← → 弱み					
			指標の 方向性	60以上	52.5以上	47.5～ 52.5	47.5以下	40以下
家族・住生活								
持ち家世帯率	↑		数字については精査中					
住宅延べ面積が100㎡以上の割合	↑							
一戸建て比率(全世帯)	↑							
3世代同居率(一般世帯数に占める3世代世帯の比率)	↑	64						
地域コミュニティ								
身近にいる子ども数(0-14歳人口密度)	↑							
子供健全育成NPO数(0-17歳人口1万人当たり)	↑							
消防団団員数(人口1,000人当たり)	↑							
医療・保健環境・健康								
人口10 万人当たり病床数(病院)	↑							
人口10 万人当たり病床数(一般診療所)	↑	65						
人口10 万人当たり医師数	↑							
産婦人科医師数【主たる診療科】(20-44歳女性人口1万人当たり)	↑							
小児科医師数【主たる診療科】(0-9歳児人口1万人当たり)	↑							
特定健康診査実施率	↑							
要介護・要支援認定率	↓							
子育て支援サービス								
地域子育て支援拠点数(0-4歳人口1万人当たり)	↑							
障害児入所施設、児童発達支援センターの施設数(0-17歳人口1万人当たり)	↑							
働き方・男女共同参画								
通勤時間(家計を主に支える者、中位数)	↓							
女性労働力率(20-44歳)	↑	66						
女性第3次産業従事者割合(20-44歳)	↑							
管理的職業従事者に占める女性の割合	↑							
市町村議会議員に占める女性の割合	↑							
防災会議の構成員に占める女性の割合	↑							
女性の就業率【M字カーブ】(30-34歳)	↑							
経済・雇用								
昼夜間人口比	↑							
男女別正規雇用者比率(男性)	↑							
男女別正規雇用者比率(女性)	↑							
20-44歳完全失業者数	↓							
住宅地価変動率	↑							
商業地価変動率	↑							
行財政								
課税対象所得(納税義務者1人当たり)	↑							
財政力指数	↑							
経常収支比率	↓							

数字については精査中

6. 市民意識

(1) 朝倉市の住みやすさ

朝倉市の住みやすさについて、「住みやすい」の 22.7%と「どちらかといえば住みやすい」の 50.1%を合わせると、72.8%の市民が住みやすいと回答しています。



※小数点端数表示の関係で、項目ごとの%を足し上げても 100%になりません。

※「n」とは、まちづくり市民アンケート設問回答者数です。

住みやすいと思う理由の上位は、「気候、山、川などの自然環境」が 59.2%、「景観、水などの住環境」が 38.6%、「買い物や外食の利便性」が 23.1%となっています。

住みにくいと思う理由の上位は、「公共交通(電車やバス等)の利便性」が 54.7%、「買い物や外食の利便性」が 32.0%、「農業や商工業(働く場)」が 22.6%となっています。

住みやすいと思う理由(3つまで選択)

気候、山、川などの自然環境	59.2%
景観、水などの住環境	38.6%
買い物や外食の利便性	23.1%
治安や子どもたちの安全性	21.1%
近所づきあいや地域のつながり	14.7%
観光資源(史跡や名所、特産品等)	14.1%
ごみの資源化、リサイクル対策	12.6%
防災、消防体制の整備	10.9%
医療、福祉施設やサービスの充実度	9.4%
公共交通(電車やバス等)の利便性	8.1%
歴史や文化を知る、学べる環境	7.4%
道路や公園などの都市基盤整備	6.7%
農業や商工業(働く場)	4.7%
子育て支援サービスの充実度	4.5%
子どもの教育環境	3.5%
趣味や習い事、スポーツに取り組める環境	3.2%
ボランティアに取り組みやすい環境	0.8%
その他	3.9%

住みにくいと思う理由(3つまで選択)

公共交通(電車やバス等)の利便性	54.7%
買い物や外食の利便性	32.0%
農業や商工業(働く場)	22.6%
道路や公園などの都市基盤整備	20.9%
趣味や習い事、スポーツに取り組める環境	18.0%
子育て支援サービスの充実度	15.9%
医療、福祉施設やサービスの充実度	13.8%
観光資源(史跡や名所、特産品等)	12.4%
子どもの教育環境	10.3%
近所づきあいや地域のつながり	8.5%
治安や子どもたちの安全性	8.4%
防災、消防体制の整備	8.2%
ごみの資源化、リサイクル対策	7.6%
ボランティアに取り組みやすい環境	6.2%
歴史や文化を知る、学べる環境	4.5%
気候、山、川などの自然環境	3.5%
景観、水などの住環境	2.7%
その他	3.4%

出典:まちづくり市民アンケート(令和8年3月)

(2) 定住意識

2026 年秋
取得予定

(3) 各施策の満足度及び重要度

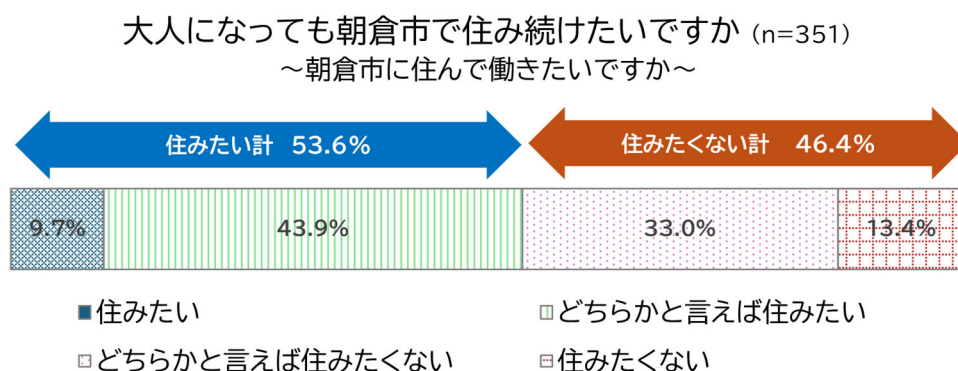
2026 年秋
取得予定

7. 中学生が思う朝倉市

(1) 中学生の今後の朝倉市への居留意識(大人になっても朝倉市に住んで働きたいか)

市内の中学生に、大人になっても朝倉市に住み続けたいか(朝倉市に住んで働きたいか)を尋ねたところ、今後の市内への居留意向は 53.6%となっており、2 人に 1 人が市内への居留意向を持っています。中学校別の市内居留意向は、十文字と南陵は 7 割を超え、杷木と比良松は 6 割ですが、甘木と秋月は 5 割を下回っています。

『居留意向』では、「自然・環境」「愛着・住み慣れている」という事由が多くなっています。『転居動向』では、「他所への憧れ・挑戦、都会志向」という肯定的理由が最も多く、続いて「田舎・何もないから」「買い物・商業施設の不足」という否定的理由となっています。



◆大人になっても朝倉市で住み続けたいか (中学校別)

	住みたい	どちらか といえば 住みたい	どちらか といえば 住みたくない	住みたくない	住みたい 計	住みたくない 計
十文字中学校(n=40)	15.0%	60.0%	25.0%	0.0%	75.0%	25.0%
南陵中学校(n=50)	10.0%	60.0%	24.0%	6.0%	70.0%	30.0%
杷木中学校(n=21)	14.3%	52.4%	14.3%	19.0%	66.7%	33.3%
比良松中学校(n=51)	11.8%	49.0%	31.4%	7.8%	60.8%	39.2%
甘木中学校(n=167)	7.8%	34.7%	40.1%	17.4%	42.5%	57.5%
秋月中学校(n=22)	4.5%	27.3%	36.4%	31.8%	31.8%	68.2%

◆居住動向の主な事由

居留意向(住みたい)の理由	意見数
自然・環境	69
愛着・住み慣れている	41
利便性・暮らしやすさ	21
人・コミュニティ・つながり	8
居心地・安心感	7
郷土愛・朝倉が好き	5
不明・なんとなく	5
仕事・経済的理由	2
地域独自の魅力	1
その他・空欄	29

※ひとりで複数事由ある場合は、重複カウント

転居意向(住みたくない)の理由	意見数
他所への憧れ・挑戦、都会志向	76
田舎・何もないから	28
買い物・商業施設の不足	24
雇用・将来への不安	10
娯楽・レジャーの不足	7
生活環境の不満	5
閉塞感・刺激の欠如	3
交通の不便さ	1
家族の事情・個人的理由等	2
空欄・特になし	13

※ひとりで複数事由ある場合は、重複カウント

(2)中学生が思う朝倉市の○と×

好きなところでは、200 件を超える「自然」への言及があり、朝倉市のアイデンティティとして中学生に深く浸透しています。次いで「食・農産品」「景観・風景」となっています。また、「人が優しい」というソフト面(人間関係)や三連水車や秋月といった「歴史・文化遺産」も自慢となっています。

足りないところ、悪いところでは、「娯楽・レジャー施設の不足」「商標施設の不足」が上位となっており意見数の約 5 割を占めます。次いで「特になし」が上位にきており、現状の静かな環境を否定していない層も一定数存在します。

◆朝倉市の好きなところ、自慢できること

好きなところ・自慢できること	意見数
自然環境(山・川・緑・田んぼ、蛭)	206
食・農産品(柿、梨、野菜、水前寺のり、おにぎり)	80
景観・風景	60
人の温かさ・親切さ・つながり	45
歴史・文化遺産(三連水車、秋月(城下町)等)	41
水の良さ	29
商業施設・店舗	25
生活の利便性	20
静かさ・のどかさ	20
公共施設・教育	14
観光・温泉・イベント	14
空気がきれい	11
安全・治安がよい	7
特になし・不明	6
その他	13

※ひとりで複数事由ある場合は、重複カウント

◆朝倉市の足りないところ、悪いところ

足りないところ、悪いところ	意見数
娯楽・レジャー施設の不足	97
商業施設・飲食店の不足	82
特になし	73
地域活力の低下・刺激の欠如	17
道路・歩道の安全・整備不足	16
交通インフラの不便さ	11
防犯・夜間の安全性への不安	9
学習・教育環境への不満	7
公園・屋外スポーツ施設不足	7
都市開発・土地利用等への不満	7
将来の展望・雇用・行政	6
衛生・生活環境の悪化	5
その他・個別の意見	14

※ひとりで複数事由ある場合は、重複カウント

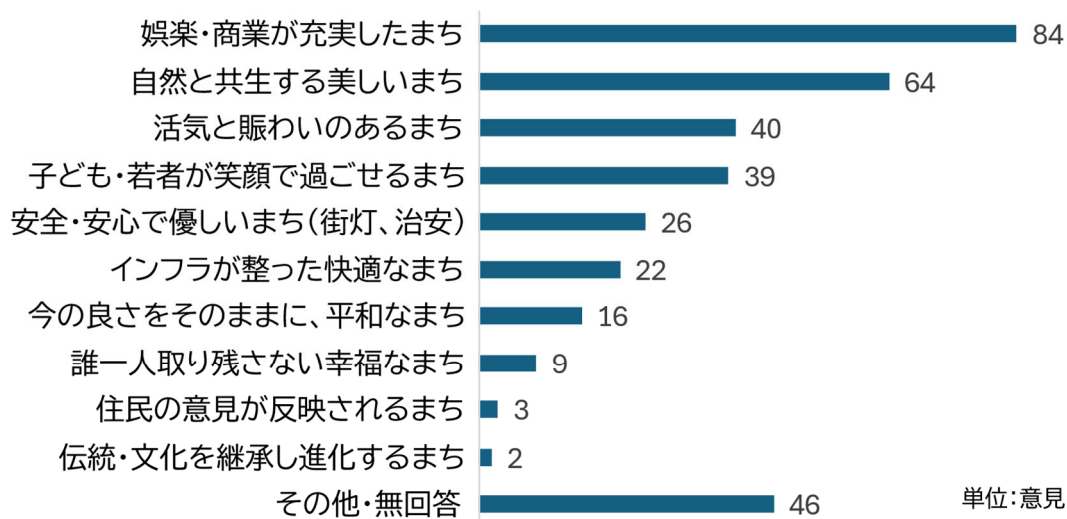
(3)10年後の朝倉市

市内の中学生が考える 10 年後の朝倉市のめざすまちの姿の最多の意見は「娯楽・商業の充実」です。類似の「活気と賑わいのあるまち」も第 3 位となっています。これらは単に遊びたいという欲求だけでなく、「遠くに行かなくても朝倉を満喫したい、暮らしぶり(働くこと含む)を充実できる」という、地元での完結性を求める願いが含まれています。

次いで、「自然と共生する美しいまち」となっており、「自然をそのままに」「綺麗なまま」という意見も非常に多く、開発一辺倒ではなく、朝倉のアイデンティティである豊かな環境の保全を中学生も強く望んでいます。

「子ども・若者が笑顔で過ごせるまち」「安全・安心で優しいまち(街灯、治安)」「インフラが整ったまち」が続いています。

10年後の朝倉市は、「どんなまち」になっていてほしいですか



本項の出典：中学生まちづくりアンケート（令和 8 年度）
本調査の回収状況（調査対象 444 人 回答者 351 人 回収率 79.0%）
※小数点端数表示の関係で、足し上げても合計が合わない場合があります

8. まちづくりの分野別進行状況

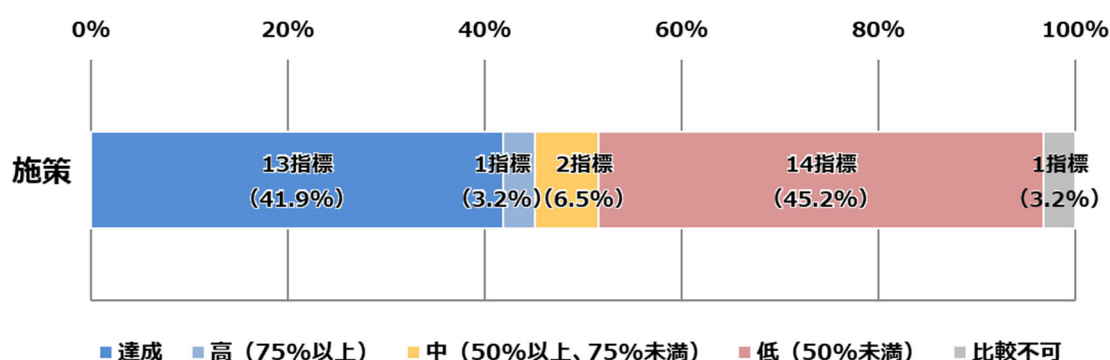
(1) 第3次朝倉市総合計画の目標達成状況

第3次朝倉市総合計画で設定した施策および基本事業の、計219の成果指標について、令和8年度の目標値と比較した進行状況は以下のとおりです。

なお、今回の報告は、基本計画4年間の1年度の評価となります。

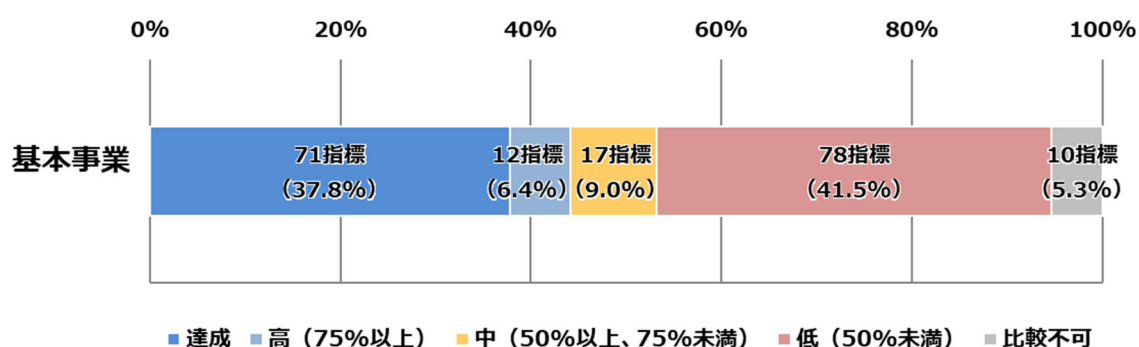
1) 施策の成果指標動向(23 施策 31 指標)

23の施策の成果として設定されている31の成果指標について、目標を達成したと評価した指標は13指標(41.9%)、達成度75%以上(高)の指標は1指標(3.2%)、達成度50%以上(中)の指標は2指標(6.5%)、達成度50%未満(低)の指標は14指標(45.2%)、比較不可の指標は1指標(3.2%)となっています。



2) 基本事業の成果指標動向(112 事業 188 指標)

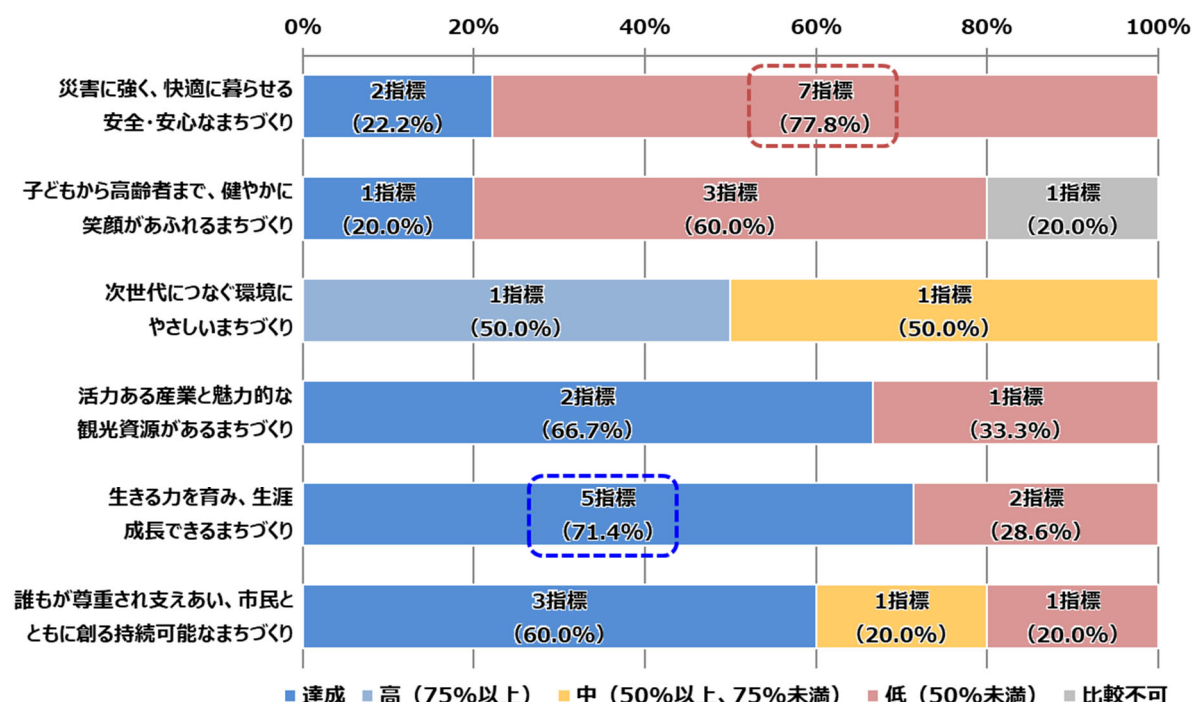
112の基本事業の成果として設定されている188の成果指標について、目標を達成したと評価した指標は71指標(37.8%)、達成度75%以上(高)の指標は12指標(6.4%)、達成度50%以上(中)の指標は17指標(9.0%)、達成度50%未満(低)の指標は78指標(41.5%)、比較不可の指標は10指標(5.3%)となっています。



3) 政策別のまちづくり動向(219 指標)

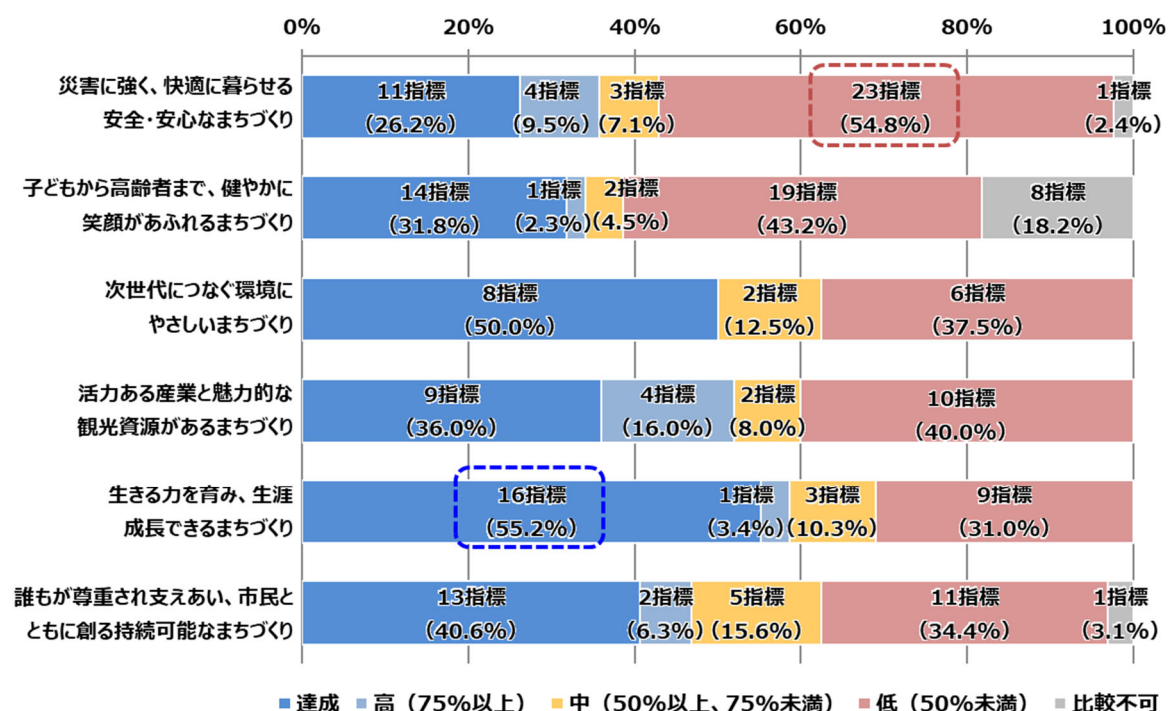
<施策階層> 目標達成度

- ・目標を達成したと評価した割合が多い政策……「生きる力を育み、生涯成長できるまちづくり」
- ・目標達成度が低いと評価した割合が多い政策…「災害に強く、快適に暮らせる安全・安心なまちづくり」



<基本事業階層> 目標達成度

- ・目標を達成したと評価した割合が多い政策……「生きる力を育み、生涯成長できるまちづくり」
- ・目標達成度が低いと評価した割合が多い政策…「災害に強く、快適に暮らせる安全・安心なまちづくり」

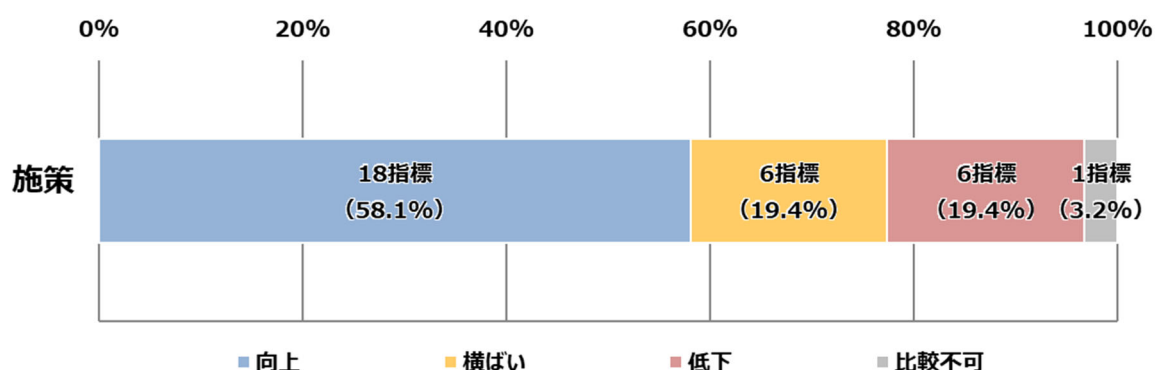


(2) 第3次朝倉市総合計画の基準値からの進捗度(向上度)

第3次朝倉市総合計画で設定した施策および基本事業の、計219の成果指標について、前期計画開始前の値である基準値と比較した進捗状況は以下のとおりです。

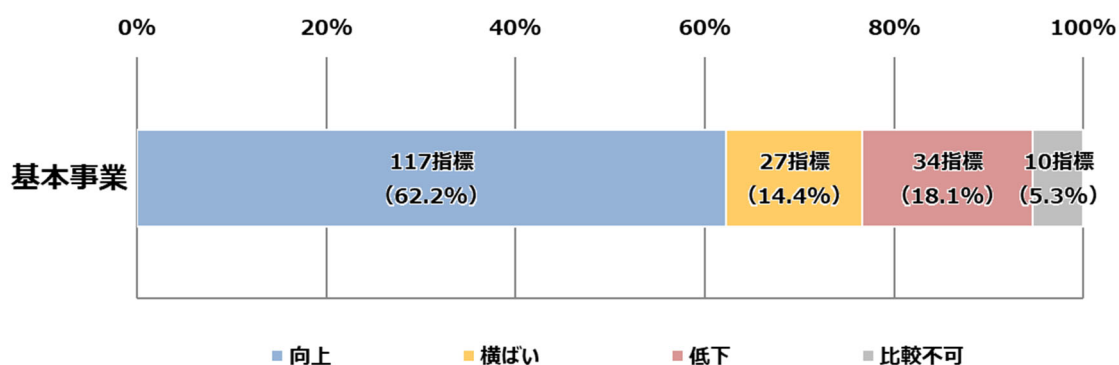
1) 施策の成果指標動向(23 施策 31 指標)

23の施策の成果として設定されている31の成果指標について、成果が向上したと評価した指標は18指標(58.1%)、横ばいの指標は6指標(19.4%)、低下の指標は6指標(19.4%)、比較不可の指標は1指標(3.2%)となっています。



2) 基本事業の成果指標動向(112 事業 188 指標)

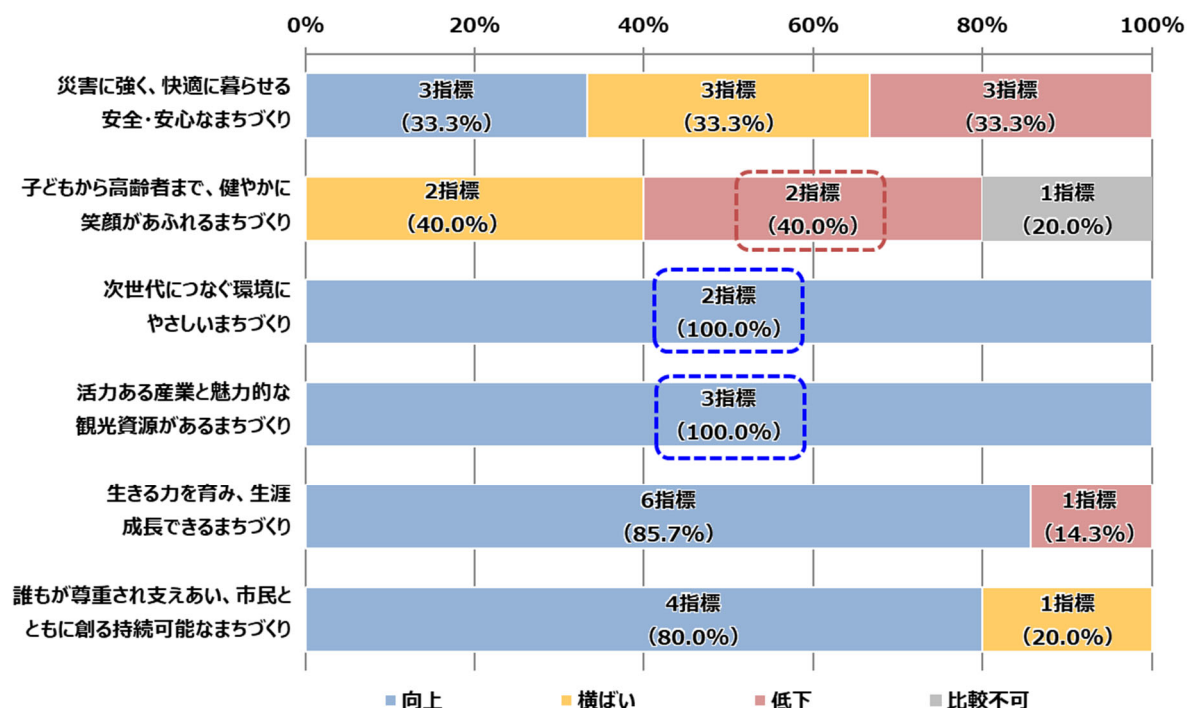
112の基本事業の成果として設定されている188の成果指標について、成果が向上したと評価した指標は117指標(62.2%)、横ばいの指標は27指標(14.4%)、低下の指標は34指標(18.1%)、比較不可の指標は10指標(5.3%)となっています。



3) 政策別のまちづくり動向(219 指標)

＜施策階層＞ 対基準値

- ・成果が向上したと評価した割合が多い政策…「次世代につなぐ環境にやさしいまちづくり」
「活力ある産業と魅力的な観光資源があるまちづくり」
- ・成果が低下したと評価した割合が多い政策…「子どもから高齢者まで、健やかに笑顔があふれるまちづくり」



＜基本事業階層＞ 対基準値

- ・成果が向上したと評価した割合が多い政策…「次世代につなぐ環境にやさしいまちづくり」
- ・成果が低下したと評価した割合が多い政策…「活力ある産業と魅力的な観光資源があるまちづくり」

